

原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2018年4月」

2018年

- 4月1日 九州電力が、玄海原発3号機の2次系配管での点検で、配管に直径約1センチの穴が見つかったことを公表。
- 4月1日 東京電力が、福島第一原発1号機で原子炉格納容器内の燃料デブリが臨界していないかを確認する設備の二系統のうち、一系統で一時監視ができない状態になったと発表。残る系統は正常で、格納容器内の温度やモニタリングポストの数値に変化はなかった。
- 4月2日 玄海原発3号機で配管に1センチの穴があき、蒸気が漏れているのが見つかったトラブルで、九州電力は配管すべてを交換することを決定。4月24日に予定していた3号機の営業運転は遅れる可能性がある。九州電力の瓜生社長は「復旧のめどはわからない」。
- 4月2日 九州電力が、玄海原発3号機について、「雨水による腐食が原因で配管に穴が開いた可能性がある」と発表。約1センチの穴が見つかったものを含む配管16本すべてを取り換える方針。
- 4月2日 原子力規制庁が、東京電力福島第一原発事故に伴う避難者訴訟などへの対応を強化するため、担当部署トップの長官官房参事官に内藤晋太郎・東京高検検事就く人事を正式発表。
- 4月3日 世耕弘成経済産業相が、玄海原発3号機で発生した配管蒸気漏れトラブルについて「安全最優先で対応してほしい」、「スケジュールありきであってはならない」と指摘、十分な点検を実施するよう求めた。
- 4月3日 午前10時55分ごろ、伊方3号機原子炉補助建屋4階で、運搬作業をしていたフォークリフトから出火。作業員が消火器で消火した。現場は放射線管理区域内で、プラントや環境への放射能の影響はないという。
- 4月3日 玄海原発3、4号機の再稼働差し止めを巡る仮処分申し立てで、佐賀地裁決定を不服として、佐賀など九州・山口の住民らが福岡高裁に即時抗告した。
- 4月3日 九州電力は、玄海原発3号機の蒸気漏れを受け、再稼働している川内原発1、2号機でも類似箇所の点検を検討中であることを明らかにした。
- 4月4日 **ロシア協力の下、トルコ初となる原子力発電所が地中海近くの南部メルシン県アックユに建設着工。式典にはロシアのプーチン大統領も出席した。**

- 4月4日 日本原燃が、新規制基準による審査が中断していた青森県六ヶ所村の使用済み核燃料の再処理工場の審査の再開を原子力規制委員会に要求した。
- 4月4日 東海第2原発について、東京電力と東北電力が安全対策工事費の一部を条件付きで支援する方針を固めた。
- 4月4日 福島第一原発事故で住民らが東電に損害賠償を求めた集団訴訟で、原告全員が、福島地裁いわき支部の1審判決を不服とし、仙台高裁に控訴した。東電も控訴。
- 4月4日 九州電力が、玄海原発3号機のトラブルに関連して、定期検査で停止中の川内原発1号機でも詳細点検し、異常がなかったことを明らかにした。川内2号機も異常はなく、定期検査で詳細を改めて調べる。
- 4月4日 2017年10月16日、北大大学院工学研究院の山形定助教(環境工学)が「ニセコでエネルギーと環境を考える」と題し、北海道ニセコ町立ニセコ高校エネルギー問題に関する講演の際、原子力発電所の短所を指摘しようとした部分について、経済産業省北海道経済産業局の幹部が事前に講演資料を入手し、助教に変更を求めていた。
- 4月5日 九州電力が、川内原発1号機で1本の核燃料棒から放射性物質が漏れていたことが判明したと発表。
- 4月5日 午前3時31分、新燃岳で爆発的噴火。噴煙が火口上空5000メートルまで上昇。気象庁によると、今回の噴煙高度は3月に始まった噴火活動で最高高度。
- 4月6日 玄海原発3号機再稼働した3月23日の朝までに点検担当者が、配管部分について、管を覆う薄い金属製カバーにさびが生じているのを、確認していた。
- 4月6日 廃炉となった敦賀原発1号機、2017年11月、廃炉に伴い使わなくなった新燃料をメーカーに返送するため、使用済み核燃料プールから取り出す作業中、燃料を載せた昇降機のチェーンが切れ、約4メートル落下した件で、チェーンの巻き上げ過ぎを防止する部品が変形していたことが原因と発表。
- 4月8日 関西電力が、大飯原発4号機の原子炉への核燃料装填作業を開始。5月中旬の再稼働を目指す。
- 4月9日 午前1時32分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.8と推定。島根県大田市で震度5強。島根県出雲市、雲南市、川本町、島根美郷町で震度5弱。島根県、鳥取県、岡山県、広島県、岡山県、愛媛県で震度4。その他、西日本広域で震度3。

- 4月9日 午前1時43分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。島根県大田市で震度4。島根県出雲市、雲南市、川本町、島根美郷町で震度3。
- 4月9日 午前1時56分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。島根県太田市で震度4。島根県出雲市、雲南市、川本町、島根美郷町で震度3。
- 4月9日 午前2時03分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。島根県大田市で震度3。
- 4月9日 午前2時10分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。島根県大田市、島根美郷町で震度4。島根県出雲市、雲南市、飯南町、川本町で震度3。
- 4月9日 午前2時30分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。島根県大田市で震度3。
- 4月9日 島根県西部で起きた震度5強の地震。伊方原発では揺れを感知しなかった。島根原子力発電所は運転停止中で、異常はない。
- 4月9日 午前5時05分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。島根県大田市で震度4、島根県川本町、島根美郷町で震度3。
- 4月9日 午前6時38分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.8と推定。島根県大田市で震度3。
- 4月9日 九州電力が、玄海原発3号機の穴が開いたものを含む配管計16本を新品に交換したと発表。安全対策を講じるよう佐賀県が求めており、発送電の再開は未定。
- 4月9日 宮城県の村井嘉浩知事が、東北電力女川原発2号機の再稼働時期を延期する方針を示したことについて、「原発の安全性をより高める目的で、評価したい」との認識を示した。
- 4月9日 九州電力が、玄海原発周辺に地震観測点を新設する。原発敷地から半径30キロ圏内を中心に23カ所に設置する。川内原発は1997年度から原発周辺に地震計を設置、観測しているが、玄海原発では設けていなかった。
- 4月10日 経産省の有識者会議で出された報告書案に、2050年に向け再生可能エネルギーを主力電源化すると明記された。また、原発については、可能な限り依存度を低減するという現在の政府方針を維持。
- 4月10日 原子力規制庁で、2017年5月、20代の男性職員が、福島第一原発周辺の土壌調査などを行う福岡市にある「九州環境管理協会」からの申請を受けて作成された文書を紛失。上司には、決裁が完了し「許可を出した」とうその報告をしていた。

4月10日 関西電力が、3月に再稼働した大飯原発3号機の営業運転を再開したと発表

4月10日 韓国の文在寅大統領が、スロバキアのアンドレイ・キスカ大統領との会談で、「スロバキアが原発建設で韓国を選択するならば決してがっかりさせないだろう」と話した。

4月10日 23時24分ごろ、薩摩半島西方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.0と推定。鹿児島県南さつま市で震度3。

4月10日 福島第一原発事故を巡る東京電力旧経営陣3人の第5回公判で、事故前に15.7メートルの予想津波高を前提に対策を考えたが、当時の原子力・立地本部副本部長だった元副社長の武藤栄被告から見送りを指示されたと東電社員が証言。

4月11日 原子力規制委員会の更田豊志委員長が、東海第2原発の審査が大幅に遅れていると公表した。東海第2原発は、運転期限の40年となる2018年11月までに条件をクリアしなければ廃炉となる。

4月11日 大飯原発4号機を5月9日にも再稼働させる予定。6月上旬の営業運転開始を目指す。

4月11日 経済産業省が、東京電力福島第一原発の廃炉、汚染水対策にかかる費用として2183億円を支出する2018年度の東電の資金計画を承認したと発表。

4月11日 経済産業省が、東京電力福島第一原発の今年度から3年間にかかる廃炉費用を約7千億円とした東電の計画を承認し、公表。

4月11日 秋田県と岩手県にまたがる秋田駒ヶ岳では先月半ばからカルデラ付近が震源とみられる低周波地震が継続中。気象庁が、「地下の火山活動が高まっている可能性がある」と発表し、今後の動向に注意するよう呼びかけている。

4月12日 関西電力が、大飯原発4号機の再稼働を前に、営業運転中の3号機と同時に事故が起きたとの想定で訓練を実施。4号機の原子炉への核燃料装填を完了、5月9日にも原子炉を再稼働させる予定。

4月12日 22時37分ごろ、宮城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。宮城県仙台宮城野区、石巻市、塩竈市、気仙沼市、名取市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、松島町、涌谷町、宮城美里町、女川町、南三陸町、岩手県大船渡市、一関市、住田町で震度3。

4月13日 玄海原発3号機の蒸気漏れ事故を受け、佐賀県が会合。九州電力は再稼働を予定する4号機についても、同種の配管を取り換える方針を示す。

4月14日 午前4時00分ごろ、根室半島南東沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.4と推定。北海道中標津町で震度5弱。根室市、

浜中町、別海町、標津町、羅臼町で震度4。釧路市、斜里町、清里町、大空町、厚岸町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町で震度3。

4月14日 2016年4月14日21時26分、熊本地震(前震)が発生。3月末時点で県内外の仮設住宅や公営住宅などで暮らす被災者は1万6766世帯3万8112人。1年前に比べて3440世帯9613人の減少にとどまる。

4月14日 午前10時36分ごろ、愛知県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.5と推定。愛知県西尾市、高浜市で震度3。

4月14日 15時13分ごろ、愛知県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。愛知県西尾市、高浜市、幸田町で震度4。愛知県名古屋緑区、岡崎市、半田市、豊川市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、蒲郡市、常滑市、東海市、大府市、知多市、知立市、愛知みよし市、阿久比町、東浦町、愛知美浜町で震度3。

4月14日 愛媛県が、「原子力災害に備える住民避難～もしものとき、冷静に行動するため～」というDVDを作成。伊方原発での原子力災害時に住民の円滑な避難につなげるため。

4月16日 東京電力が、福島第一原子力発電所2号機の使用済み燃料プールの真上に位置するフロアの放射線量を調べるため、建屋の壁に穴を開ける作業を開始。

4月16日 午前3時35分ごろ、トカラ列島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.6と推定。鹿児島県鹿児島十島村小宝島で震度3。

4月17日 福島第一原発事故を巡る東京地裁での第7回公判で、事故前に津波の試算を担当していた東電社員が、将来の大津波の発生確率を計算するのに必要な過去の地震の記録がなかったとして「原子炉を止める切迫性はなかった」と述べた。

4月17日 九州電力が、玄海原発3号機の配管トラブルに関し、再発防止策を含む報告書を佐賀県や原子力規制庁などに提出。近く発電と送電を再開する方針を記者団に示し、佐賀県も了承した。

4月18日 配管トラブルで3月31日に停止していた玄海原発3号機の発電と送電を再開。原子力規制委員会の最終検査を経て、5月中旬に営業運転に移行する見通し。

4月19日 15時55分に宮崎・鹿児島県にある霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)で250年ぶりに噴火、火口から約300メートルの噴煙が上がった。気象庁は

火口周辺に大きな噴石が飛散したのを確認、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から3(入山規制)に引き上げた。

4月19日 20時38分ごろ、岩手県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.7と推定。岩手県普代村で震度3。

4月21日 玄海原発4号機の原子炉内に核燃料を入れる作業を開始。計193体の燃料を、5日間ほどかけて燃料貯蔵プールから移す。5月中の再稼働をめざしている。

4月21日 原子力規制庁が、志賀原発の敷地内にある断層の活動性評価に関し、北陸電力へのヒアリングを開始。北電が調査したデータを確認した後、新規規制基準への適合性審査会合で活動性の有無を本格的に議論する。

4月21日 東海村の東海第二原発での深刻な事故に備え、常陸大宮市が広域避難計画を策定した。

4月21日 18時47分ごろ、千葉県東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.1と推定。茨城県神栖市、千葉県銚子市、旭市、香取市で震度3。

4月22日 九州電力が、玄海原発4号機が早ければ5月24日に再稼働するとの工程表を、原子力規制庁に提出。

4月22日 日本原子力発電と東海第2原発の再稼働や運転延長にあたり、東海村に加えて、半径30キロ圏内の周辺5市にも全国初の「実質的な事前了解権」を与える新たな安全協定を結んだ。

4月22日 20時30分ごろ、新島・神津島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。東京都神津島村で震度3。

4月23日 川内原発2号機の発電設備と送電系統を切り離し、原子炉等規制法に基づく定期検査に入った。原子炉格納容器内の蒸気発生器を1985年の営業運転開始以来、初めて取り換える。

4月23日 再稼働した玄海原発3号機のフル稼働状態になったと発表した

4月23日 午前1時01分ごろ、島根県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.1と推定。島根県大田市、雲南市、川本町、島根美郷町で震度3。

4月23日 午前5時49分ごろ、新島・神津島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。東京都神津島村、新島村で震度3。

4月24日 17時53分ごろ、根室半島南東沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは5.3と推定。北海道根室市、浜中町、別海町で震度4。釧路市、清里町、釧路町、厚岸町、標茶町、鶴居村、白糠町、中標津町、標津町、羅臼町で震度3。

- 4月24日 東北電力が女川原発2号機の安全対策工事の完了時期を2020年度に延期。見直しは3回目で、再稼働も同年度以降となる。
- 4月24日 三菱重工業、伊藤忠商事などがトルコで進める新型原発建設計画から、伊藤忠が離脱。事業化に向けた調査が行われたが、現時点で事業化のめどが立っていないことから参画を見送る見通し。
- 4月24日 九州電力が、再稼働を目指す玄海原発4号機の原子炉に核燃料を装填する作業を終えたと発表。
- 4月25日 原子力規制委員会が、浜岡原発の建屋で放射性物質を含む堆積物が見つかった問題で、外部への影響がないことなどから国際的な事故評価尺度(INES)で8段階の一番下に当たるレベル0(安全上重要ではない事象)と最終評価。
- 4月25日 東海村の東海第二原発から30キロ圏に入る高萩市の大部勝規市長が、再稼働に反対する姿勢を示した。
- 4月26日 東北電力が、女川原発2号機の安全対策工事の完了時期を2020年度に延期すると発表。また、東通原発1号機の安全対策工事も、19年度としていた完了時期を延期すると発表。
- 4月26日 チェルノブイリ原発4号機の爆発事故から32年を迎えた。原発の核燃料除去まで500年以上かける方策が現実的との見解。
- 4月26日 福島第一原発2号機で溶け落ちた核燃料を撮影した調査映像の分析結果を公開。原子炉には少なくとも2か所、穴が開いていることが新たに分かった。原子炉格納容器の底部で、デブリとみられる堆積物が周囲より高く積もった場所が複数確認。真上にある原子炉圧力容器の底に複数箇所穴が開き、そこからデブリが落下したとの見解を示した。
- 4月26日 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)で、18時15分頃、噴火が発生。
- 4月28日 午前0時59分ごろ、西表島付近を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.3と推定。沖縄県西表島で震度3。
- 4月28日 「脱原発をめざす首長会議」が、全電力会社に対し周辺自治体への「事前了解権」を認める安全協定の締結を求める決議などを採択、近く各社に提出する。
- 4月29日 17時47分ごろ、秋田県内陸南部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.1と推定。秋田県大仙市で震度3。